

過疎地寺院青年僧侶による懇談会

S 63・8・30 於：宗務院

現状と問題点

司会 過疎問題についての懇談会を始めたいと思います。まず、現在過疎地域に置かれている寺院の現状と問題点について、お話し載きたいと思えます。小川上人からどうぞ。

小川 私のは越後路で、地理的・社会的には過疎ではなくて、それ程悲観的な状況ではないのですが、集落単位で見ますと、過疎で無くなってしまった村があります。そういう所は、何をやっても先細りで、それにまかせるしかないような状態なのです。ですから、減っている所で、如何に檀家を離さないようにするかということだと思います。

本間 佐渡は霊場が多いものですから、特殊なケースだと思えます。寺院名簿には二八カ寺ありますが、実際には住職もいなく、廃寺寸前や建物もないお寺があります。お寺には、今迄存続してきた歴史と先師の意志があるのですから、統廃合せずに、できるだけ残したい気がします。法類は、佐渡に来ようとする教師に対して、法華経流布のための同志が一人増えるとは見ないで、檀家を取り、生活を脅かす人が増えるというようにしか、見ないようですね。

過疎問題を打開するには、僧侶が生活を確保するために代務をし、利己的で営利を追求するような寺院運営をするのではなく、妙法広布の

意欲を強く持って、地域に根ざした布教方法を考えていくように、僧侶自身の考えを変えていかななくては、新しい発展はないのではないかと思います。

立石 長崎県の離島部の人口動態は、一〇年間で一割づつ減ってまして、九州経済調査会によれば、一〇年後には三千人を切ると思います。これも、昭和六四年に過疎法、六七年には離島振興法が切れますが、それ如何によると思います。

離島振興法がなくなると、公共事業が今の十分の一に減ると思われれます。そうすると、公共事業で生活を支えていた人達や、農業をやっている人も公共事業に従事することによって存続してきた人達は、現金収入の道が閉ざされて生活が出来なくなり、島を離れて行かざるを得なくなるということですね。ですから、今は老夫婦がいるから檀家数がそれ程減っていないけれども、ある時にゴソツと減る可能性があるという状況を認識していないといけないのが、離島の現状なのです。

問題点は、人口流出や世帯数を減らさないようにするには、どうしたらいいかということですね。それには、跡継ぎを戻す以外にない。戻すためには、働く場所や所得の増大を考えていかないと、過疎化は留まらないということだと思います。

谷 今、宮津市は人口の減少が一番の問題になっ

ていまして、寺院や行政で考えても、今のところ目先真つ暗でどうにもならないのが、現状かと思われれます。

以前に住職がいなくなったお寺で、合併の話が出たのですが、丹後は昔から、檀家さんがお寺を守り、住職の生活を見ろという意識が高かったものですから、もめてしまい、やっぱり出来なかつた。その反面、代務を頼んで馴れてしまつると、檀家も住職の面倒を見なくて負担もかからないので、代務のほうがいいというのが、現状だと思えます。

檀家さんの気持ちを考えると、統廃合は無理ではないかと思えますね。

今野 千葉東部では、宗務院の代務を無くすという方針で、一時宗務所が動いて、住職を入れたことがあるのです。その住職は、全部東京から入って来るのですが、誰れも住まないし、地区の会合にも一切出てこない。住職名義がほしいというのが実状ですね。ですから、地元の坊さんに、部落・近隣のお寺を代務させ、檀家をまとめてもらうほうがいいのです。それが、統廃合へも繋がると思うのですね。

多古は、檀林の発祥地なのです。いいこともあるのですが、檀家の先祖に坊さんがいるものから、お寺の裏を知り過ぎていて、如何にお寺をいじめようかというのが、何百年も続いている。それを打開するには、ただ稼げばいい

というのではなくて、如何に坊さんが皆と手を組んで、もつと坊さんらしくなるかという、モラルしかないと思います。

寺院は、新寺建立より移転のほうが簡単ですから、千葉の場合、新興住宅地がものすごい勢いで増えているので、お寺がありませんので、他であり余っているお寺を、そこに移せばいいと思います。しかし、お寺が移るだけの土地が買えないというのも、現実なのです。

また、今色々なことをやろうとした場合、法類が絡んでくるのも確かです。自分の法類を減らしたくないから、統廃合はだめだと。威張って口は出しますが、お金は一切出さないというの、現状です。宗門として、何とかしないといけないですね。

問題解決のためには

司会 現状の報告から、寺院の統廃合、新寺建立、移転は可能か、法類の枠は越えられるか、等が問題点として挙げられて来ました。

次にこうした現状に対し、現在、そして将来にかけて問題解決のためにはどんなことをしたらいいのかということについて、お話しをして頂きたいと思います。

本間 新興住宅地にお寺が欠乏しているのであれば、そこに過疎のお寺が共同出資で布教所を建てて、青年会や非住職も順番に布教活動が出来るといえるように思っています。収入は、全体の中から給料で貰えれば、寺院経営の発展的運営が出来るのではないかと思うのです。

小川 そうですね。アパートの一室でもいいから、テレホン相談など色々なものを集約させた布教

センターみたいなものにして、檀家さん以外にも、気楽に電話をかけて相談できるような所がいいですね。

司会 その地区のお寺の窓口ですね。ここに連絡して下されば、色々な相談に応じますというような形。千葉東部では、出来そうですがどうですか。

今野 以前から宗務所長とも話し合っていて、若手の働く場所として、東京近郊に相談所を作ろうという構想があるのです。しかし、若手が自分で車に乗って、出稼ぎに行ってしまうものですから、なかなか実現しない。

千葉は、東京に近いというだけで、東京へ出ていった檀家へも、お経回りには行ける。また、分家をも引き込んで、自分の生まれた所に墓地をという方法をとれば、それが檀家にもなっているのではないかと。一番いいエサは、やはり墓地だと思えますね。でも、統廃合は考えていかなければいけない。

司会 宮津のほうは、将来的にどうですか。

谷 真つ暗ですね。丹後は過疎ですが、何とか食べていけるので、統廃合しなきゃ生活ができませんという危機感が無いような気がします。裏を返せば、活発な方は非常に活発です。お寺は、細々でいい。自分は、京都・大阪の町へ出て、布教をすればいい。お講のようなものですね。

それくらいしか、丹後地区では、解決の道はないのじゃないかと思うのです。

司会 立石上人の場合、ちょっと隣の島へとはいかないでしょうけども……

立石 その辺が、過疎問題の難しいところですね。離島といいますが、地図上で近くても、経

済圏が全く違う場合がありますから、長崎県で統廃合・代務をするならば、本土と離島という方法しかない。離島間では、無理だと思えます。なぜなら、離島には、日蓮宗じゃなくちゃだめだという意識は無いのですよ。日蓮宗として、そこががんばっているから来るのであって、もし代務をしたら、いつもいるほうがいいということになって、他宗へ行っちゃう可能性が大きい。廃寺にしないためには、過密地帯に布教所を持つことだろうと思います。もちろん、先ず島の人口を減らさないことです。

司会 今現在、過密地帯に出張している人は、いるのですか。

立石 いまねえ。交通の問題と高齢化によるのでしようね。

司会 今、高齢化ということが出ましたが、若い人がいなくなるといことについて、どうですか。お寺でも檀家の若い人達が出て行ってしまうと、協同して寺の活動をする場合、難しいと思えます。

谷 住職は若い人が多いのですが、檀家さんを見ますと、お先真つ暗ですね。六割近くがお年寄りの世帯で、子供が町に生活の拠点を置いているものから、老夫婦が一人になれば、引き取ってしまう。外に出た檀家には、お盆などの時に廻るしかないのですよ。

立石 うちの場合、福岡に出る人が多くて、島の人よりも出た人のほうが多いのじゃないですか。出た先で日蓮宗のお寺がなければ、他宗へ行ってしまう。いずれは、福岡に出たいと思えますが、今は島内で手いっぱいなんです。

今野 私は、ある程度人間関係だと思っています。日

蓮宗だから必ずいいというわけではなくて、人間同士の繋りの中にあると思います。

立石 うちの場合は、目前から人が消えちやうのですね。やっぱり、自分が追いかけていって、続けるしかないですよ。

小川 さっきの今野上人のお話して、悪い言葉で言えば、お墓を人質にするというのは、これから先、強くなると思いますね。私も今、お墓というところで、子供がいなくて後を守る人がいない人達を対象に、日蓮宗の供養でいいなら、誰でも入れるようなお墓を作ろうと思ってるんです。屋外に石でロッカー形式のものにして、一軒でお墓を建てるよりも、安くなりますよと。そういう人達は、宗派に関係なく、見てくれるところを捜しているのですから、逆に過疎のお寺は、お墓守りに専念して、それである程度収益を得て、別の活動をしたらいいのではないですか。

今野 やっぱり、お寺も旧態然としていてはだめで、どんどん変っていかないと、いけないと思います。

立石 離島で人口の減らない島が、一つだけあるのです。なぜかという、普通は人が移ると墓地も移すのですが、そこは島の人墓地の世話をするからと言って、絶対に墓地を移さないようにしている。墓地を移さないで、過疎を食い止めているのです。

今後のプランと宗門への要望

司会 最後にまとめも含めて、これだけは自分自身もしたい、宗門にもしてもらいたいことがございましたら、一言づつお願いします。

本間

過疎寺院といっても、まわりが過疎になってるのであって、お寺には歴史や先師の意志がありますから、住職が本気になって残していかないとならないと思うのです。また、布教や修行会を活発にすることも大事ですけれども、それよりも坊さんが先ず、安心を与えられるような基礎的な布教方法をもう一度見直して、地域にあった布教活動に取組まないとならないと思います。

立石

私は、二段構えで考えています。

島内については、このまま人口維持をするにはどうしたらいいかということ、将来心理的なセンターを作りたいと思っています。今の情報化社会の中で、神経を磨り減らしている人達や仏教にまったく縁のなかった人達が、心と体を休めながら、ゆっくり合掌をしたり仏の教えを聞けるようなことができたらと思っています。ただ、自分一人や地域の者だけで考えても、なかなか出来ないもので、計画の段階で専門的な知識が必要な場合に、相談を受けて、情報を得られるようなものを宗門でやってほしいですね。宗教的な情報だけを揃えるのではなくて、寺おこしのための情報センターを考えてほしい。

島外に出るといことについて、都会に出た場合、必ずそこのお寺と摩擦が起こります。ですから、大都市へ出ていくための最低限守らなくてはならないことのルール作りを、お願いしたいですね。

谷

統廃合については、丹後は改宗して日蓮宗になったお寺が多いものですから、先師がいかに改宗し、守って来たかを考えると、簡単に統廃合はしたくないですね。少なくとも自分の

代だけは、檀家がゼロになっても、出来る限り守っていきたいという気持ちでいるわけです。

今野 絶対に統廃合しなきゃいけないという意見もわかりますが、統廃合しなきゃだめだという意見が出てきても、いいと思っています。やはり、我々が坊主という立場の中で、如何に坊主を全うするか、また本人の布教活動の如何によって、統廃合が出来るか出来ないかが、決まってくると思います。

小川

私も、統廃合がどちらということとは決してなとは思いますが、それをあえて宗門の政策としてやるにはよほどの準備がいます。

過疎問題に関して言えば、過疎地の中で自分達がどう生き延び、発展していったらいいのか、というアイデア・ノウハウが非常に難しいので、それがほしいですね。全国の過疎地寺院のシンポジウムのようなものを開いたり、皆が情報交換できる場所を作り、その情報をきちんとまとめてフィードバックできるシステムにし、生き生きとした情報が飛び交うような宗門を作ってほしいと願っています。

司会 活発なご意見を戴きまして、どうもありがとうございました。

参加者

千葉東部	妙高寺	今野泰元
新潟東部	妙光寺	小川英爾
新潟北部	世尊寺内	本間裕史
京都二部	妙典寺	谷 浄章
長 崎	報國寺	立石隆教
司会	現宗研主任	赤堀正明